



大村の人は温かく、  
子育てにも良い環境  
だと実感しています。

# 業

# 農

**夫**・慎吾さんの故郷である北海道から大村市へ移住してきた佐々木さんご夫妻。きっかけは、大村市でミカン農家を営んでいる益美さんの叔父からの「後継者になってほしい」という言葉だったという。酪農家を営む家庭に育った慎吾さんは、それまで勤めていた運送会社を辞め、就農することを決意。益美さんは「夫のやりたいこととならし」と、心を決めたそう。

の新規就農支援制度。最初の二カ月間で農業の基礎を学び、その後十カ月間は県内の農家で実践研修を受け、技術を習得することができました。これまではキュウリを中心に季節の野菜を栽培してきたが、今年からは念願だったミカンの栽培も手掛けるようになった。「二年目は、分からないことだらけで、本当に大変でした。でも地域の方や農家の先輩に助けられ、ようやく仕事にも慣れてきましたね」と慎吾さんが言えば、「採れたての新鮮な野菜を食べることができるのは農家の特権です。子どもたちも喜んで食べます」と益美さ

ん。二人は収穫の喜びを分かち合いながら、農業を楽しんでいる。三児の母としても奮闘中の益美さんは実は東京育ち。「子どもの頃、夏休みになると、母の実家がある大村へ来ていました。川遊びなど本当に楽しかった思い出があるので、今子どもたちが自然の中で遊んでいるのを見ると、移住して良かったと心から思います。また東京で看護師として忙しく働いた経験のある益美さんは、自然に囲まれた暮らしに暮らしていることで、心に余裕ができたとも教えてくれた。

た。移住を決めた時から、将来の話をよくするようになったという二人は、同じ方向を見つめることで、同志のような気持ちが生まれ、けんかも減ったと笑う。ビニールハウスには、二人が育てた野菜が出荷を待っていた。



## 二人三脚で 農業をゼロからスタート